

毎週日曜発行  
2025 6/8

こども新聞  
週刊

がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



きょうのテーマ

快適な洋式トイレを備えた車両が災害時に活躍しているよ。「トイレカー」や「トイレトレーラー」と呼ばれ、昨年の能登半島地震でも多くの車両が全国から被災地に駆けつけ、被災者の生活を支えたよ。



地球のためにできること

災害時に活躍トイレカー

みんなの将来

気仙沼市のトイレトレーラーは全長5・7メートル、幅2・4メートル、高さ3・5メートルで、けん引車で移動できます。洋式トイレの個室が3部屋あり、1部屋は広々としたバリアフリー仕様です。電動リフト付きで車いすの人も利用できます。



け付けただんたて。国連の持続可能な開発目標(SDGs)の6番目「安全な水とトイレを世界中に」に通じる取り組みで、宮城県気仙沼市もトイレトレーラーを被災地に派遣したんだよ。



機動力を生かし助け合い

0人が避難した鳳至小に貸し出され、1月7日、11月10日まで避難者の生活を支えました。

トイレトレーラーを届けた気仙沼市観光課の及川進さん(59)は「安心してトイレを利用する避難者を見て、役に立って良かったと思いました」

と振り返ります。災害時のトイレ確保の難しさは、気仙沼市も東日本大震災で痛感しました。市内の下水管や汚水処理施設は海水に漬かり、各地でトイレが使えなくなり、食事を我慢し、体調を崩す避難者もいました。

市が当時の経験を踏まえ、トイレトレーラーを導入したのは2022年です。仙台市出身のお笑いコンビ「サンドウィッチマン」が発起人となった「東北魂義援金」による支援活動の一環で、寄贈してもらいました。



トイレトレーラーの機能を説明する及川さん  
＝5月20日、気仙沼市の徳仙丈山

みんな知りたい

及川さんは「われわれも全国から多くの支援をいただいたので、いつか恩返しをしたいと考えていました。今回の派遣の経験を生かし、今後も支援に駆け付けたいと思います」と話します。



みんな守ろう

この日 何の日

◇12日(木) みやぎ県民防災の日

1978年の宮城県沖地震が発生した日で、宮城県が2008年に震災対策推進条例で定めました。地震の経験や教訓を思い起こし、防災意識を高めてもらうのが目的。毎年、県内各地で防災訓練が行われます。

みんなトモダチ

- 2面 イマ★どき
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 投稿特集

